

熊本県立荒尾支援学校進路便り 2月号 (通巻 NO. 34)

わーく&らifu

平成31年2月21日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★特集 小学部一般学級 生活科「衣服」「清潔」「調理」

梅の花が咲き始め、高等部3年生は荒尾支援学校を卒業し、社会へ旅立つ時が近づいてきました。荒尾支援学校では小学部段階から高等部卒業後を見据えて、どのような力を身に付けるかを明確にして授業に取り組んでいます。

障がい者の就労の専門家、早稲田大学教授 梅永先生は、就労を実現しかつ、長く働き続けるために必要な力は、作業に向かう力そのものよりも「生活していく力(ソフトスキル)」だと述べておられます。

今回の進路便りは、小学部一般学級「生活科」で取り組む、生活する力の育成を紹介します。

◆題材「衣服の整理」

障がいのある子どもたちには、「具体的に、じっくり、繰り返し」教えることがポイントです。そこで衣服の整理について2時間扱いで学習しました。具体的に衣服の畳み方が分かり、「はみ出さないようにカゴに片付けると気持ちがいいね。」という発言もありました。また、授業後には自分で丁寧に畳もうとする姿が見られました。今後も整理整頓の習慣形成のため、毎日の生活で継続して取り組んでいきます。

◆題材「手と衣服の清潔」

低学年では「手の清潔」、中高学年では「衣服の清潔」について学習しました。学年毎に取り扱う内容を変え、6年間で系統的に学習しています。汚れに気づき、体や衣服を清潔に保つことができるように今後も取り組んでいきます。



各学年の生活科「清潔」のめあて

- 1年生 「てをきれいに あらって おかしをたべよう」
- 2年生 「めいたんていになって てのよごれがどこからくるのか みつけよう」
- 3年生 「よごれのなぞを さがしだそう」
- 4年生 「えぶろんを おとさないように はんがーにかけて ほそう」
- 5・6年生 「3つのほうほうのなかから くつしたのよごれが いちばんきれいにおちるほうほうを みつけよう」



◆題材「調理」

7月の夏野菜の収穫に合わせてピーラーや包丁など調理器具の使い方を学習しました。

事前に調理器具の使い方に慣れることができたので、夏野菜の収穫祭では各学年で調理を分担して美味しいカレー、キュウリの浅漬け、フルーツヨーグルトを作り全員で食べました。また、後期にも調理の学習に取り組み、卵やウインナーの加熱による変化に気付くことができました。



編集後記

小学部段階では、卒業後の自立と社会参加を目指し、その基礎となる、生活していく力(ソフトスキル)の育成に力を入れ、お手伝いや係活動で取り組んだり、生活科の授業で具体的な体験を通して学んだりするようにしています。

6年間の体験的で系統的な学習を通して「何ができるようになるか」を明らかにした授業により、「かかわる」「きめる」「はたらく」力を確実に育むために、職員一同取り組んでいきます。(小学部 酒井・深浦)

